



2010年10月21日

各 位



(証券コード 4541 大証第一部・名証第一部)

代表者名	代表取締役社長	田村 友一
お問合せ先	社長室長	東 満之
	TEL 076-442-7026	

## バイオ後続品の研究開発に関する資本・業務提携について

日医工株式会社(本社:富山市総曲輪、以下日医工)と Aprogen Inc.(本社:韓国デジュン、以下 Aprogen 社)はバイオ後続品の研究開発を目的とした資本・業務提携契約を本日付けで締結いたしましたので、お知らせいたします。

Aprogen 社は韓国政府が国家戦略として進めているバイオ成長戦略のもと、政府から多くの助成を受けているバイオベンチャー企業です。バイオ医薬品の開発には高度な遺伝子組換え技術とともに効率的な生産システムの開発が不可欠ですが、Aprogen 社は発現性の高いバイオ医薬品の開発システムの技術や特許を複数保有しており、バイオ後続品の課題である開発コストや製造コストの低減に寄与する革新的な技術として着目されています。また、バイオ医薬品ではまだ製品化されていない抗体医薬のバイオ後続品(一般名インフリキシマブ・トラスツズマブ・リツキシマブなど)の開発を複数進めております。

本契約では Aprogen 社と日医工が協力してバイオ後続品の研究開発を行い、日医工が日本国内における独占的な販売権を取得する業務提携となっています。日医工は本提携を通じて、Aprogen 社の発行済み株式総数の 33.4%に相当する株式を Aprogen 社が行う第三者割当により取得する予定です。また、Aprogen 社の取締役に当社代表取締役社長 田村友一と常務取締役 町田英一の 2 名が就任する予定です。

本契約による当社業績に与える影響は現時点では軽微です。今後の見通しにつきましては詳細が決まり次第、改めてお知らせいたします。

以上

#### < バイオ後続品について >

バイオ後続品とは、国内で既に新有効成分含有医薬品として承認されたバイオテクノロジー応用医薬品と同等/同質の品質、安全性、有効性を有する医薬品として、異なる製造販売業者により開発される医薬品です。先発バイオ医薬品と全く同じものではないという意味で「バイオシミラー」とも呼ばれます。特に抗体医薬品は、分子量 15 万以上の高分子で糖鎖も有し構造が複雑なため同等/同質な製剤の製造・開発を行うことは容易ではなく、開発コストもかかることから日米欧ではまだ承認に至っておりません。

#### < Aprogen 社について >

2000 年 4 月に韓国で設立された治療用抗体やタンパク質の開発を行っているベンチャー企業です。Schnell Biopharmaceuticals の子会社であり、38 名の優秀な研究開発スタッフを擁して各種バイオ医薬品の研究開発を行っています。Aprogen 社の詳細については、[www.aprogen.com](http://www.aprogen.com)をご覧ください。

#### < 日医工について >

1965 年 7 月に日本で設立されたジェネリック医薬品の製造販売を行っている製薬企業です。「あなたが選ぶジェネリック」のコーポレートメッセージのもと、約 800 品目のジェネリック医薬品を日本国内で供給しており、医療機関約 12 万軒に採用されている国内最大規模のジェネリック医薬品企業です。日医工の詳細については、[www.nichiiko.co.jp](http://www.nichiiko.co.jp)をご覧ください。

#### < バイオ医薬品市場について >

国内のバイオ医薬品市場の規模は約 7,000 億円（薬価ベース）と推定されており、年間 10%以上の成長率で市場が拡大しています。

製品別ではインフリキシマブが約 570 億円、トラスツズマブは約 350 億円、リツキシマブは約 260 億円程度の市場規模と推定されています。

本件のお問い合わせ先

日医工株式会社

社長室

TEL 076-442-7026